



みんなで取り組む手指衛生

—WHO多角的戦略で“周知して定着させる”福祉施設の取り組み—

黒木 利恵

神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
感染管理認定看護師教育課程 専任教員



はじめに

福祉施設では、食事介助、排泄支援、移動や更衣の介助など、手を使うケアが生活の中心となっています。一方で、感染症の多くは「手」を介して広がるため、手指衛生の徹底は利用者・職員双方にとって欠かせない感染対策です。

しかし、「手指衛生が定着しない」「人によって行動に差がある」「忙しい場面では忘れがち」という声も少なくありません。手指衛生は「伝える」「意識を高くする」では行動変容・継続しにくく、どのご施設でも難しい問題になりがちです。

世界保健機関(WHO:World Health Organization)は医療・介護を含む幅広い現場で、手指衛生を定着させるための多角的な戦略(MMIS:Multimodal Hand Hygiene Improvement Strategy)を示しています。本稿では、福祉施設で手指衛生を周知し、継続していくためのポイントを、MMISの5つの柱に沿って紹介します。

I WHO手指衛生多角的戦略(MMIS)とは

MMISは、以下の5つの要素で構成されます(表1)。この5つを組み合わせることで、「知っている」から「できる」「続けられる」へ変化させます。

表1 WHO手指衛生多角的戦略(MMIS)の構成(概略)

要素	概要
① 物品設備	手指衛生を“しやすい”設備や物品を整える
② 研修教育	手指衛生をなぜ、いつ、どのように行うかを身につける
③ 測定評価	手指衛生の実施状況を確認し、伸びしろを見つけて、改善につなげる
④ 現場掲示	手指衛生を忘れずに思い出すための工夫を行う
⑤ 組織文化	組織が一体となって手指衛生に取り組む

II MMIS 5つの要素



① 物品設備 手指衛生をやすくする環境作り

手指衛生は、意識よりも「環境」に左右されます。手指消毒剤がすぐに使える場所にあるか、手洗い設備が使いやすいか、ハンドケアができるかなど、しやすさが定着につながります。「手指衛生をしたい」と思った瞬間に手指衛生できる環境が大切です。

ご自身の施設の手指衛生のしやすさについて、「表2 物品設備チェックリスト(施設向け)」を用いて点検してみてください。

POINT

手指消毒剤を職員・利用者の動線上に配置する

- ・各居室前
- ・食堂・レクリエーション室の入口
- ・トイレ
- ・介助ワゴンや車椅子の近く
- ・職員に携帯用手指消毒剤を用意

手洗い設備を整える

- ・泡タイプの石けんの設置
- ・ペーパータオル・ゴミ箱の設置
- ・ぬるま湯で手洗いができる環境
- ・石けん成分が皮膚に残らないようにしっかり流せる水量

手荒れ対策

- ・保湿剤(ハンドクリーム)の設置
- ・皮膚の状態を相談しやすい環境
- ・低刺激性の手指消毒剤を用意

表2 物品設備チェックリスト(施設向け)

項目	実施状況
手指消毒剤が動線上に配置されている	☐ YES / ☐ NO
ペーパータオル・ゴミ箱が設置されている	☐ YES / ☐ NO
手荒れ対策の物品が提供されている	☐ YES / ☐ NO
利用者の手洗い場も整備されている	☐ YES / ☐ NO

② 研修教育 教育を継続する仕組みを作る

手指衛生を正しく実践できる職員を育てるためには、「知識がある」だけでは定着しません。「できる」状態を作るために、継続した学びの仕組みが必要です。各施設の教育計画を作る際に、以下の教育の仕組み作りのポイントと、表3「教育の仕組み作りと実践例」を参考になさってください。

POINT

- 楽しく、やりたくなる研修作り
- 「自分ではできているつもりだったのに…」という気づきを大事にする
- 他者に教えることこそが、一番の学ぶ機会

表3 教育の仕組み作りと実践例

教育の仕組み作り	実践例
新人研修を必ず実施する	●以下の3つを教育する ・手指衛生の目的 ・手指衛生の5つの瞬間 ・手洗い・手指消毒の手技
現場で継続できる反復教育を行う	●月1回のショート研修 例) 講師は月替わりで15分のレクチャーをする ●仕事はじめの唱和 例) 夜勤開始前に「食事前の手洗いを忘れずにやろう」と勤務者で唱和する ●動画による振り返り 例) 実際の手指衛生の場面やケアの場面を撮影して手指衛生の実施状況を振り返る ●ショート教育動画 例) 手指衛生の大事なポイントをショート動画にして配信する
体験的なトレーニングで身に付ける	●洗い残し・塗り残しチェック 例) ブラックライトと蛍光ローションを使った手の洗い残し、もしくは手指消毒剤の塗り残しチェック ●手指衛生の手技を確認しあう 例) 職員同士で手指消毒・手洗いの手技を確認する日を作って実施する ●ケア場面のロールプレイ 例) おむつ交換の時の手指衛生はいつするとよいか、15分間ロールプレイして、グッドプラクティス(良い実践)を見つける

③ 測定評価 現状を知り、伸びしろを見つける

手指衛生の「見える化」が定着を促します。評価は「できていない部分を責めるため」ではなく、「改善の方向性を示すため」に行います。

POINT	
簡単にできる評価方法	フィードバックはポジティブに
・手指消毒剤の減り具合(使用量確認) ・現場観察による手指衛生の実施率 ・感染症発生状況の振り返り ・職員アンケート	・よくできた点を共有する ・良い実践例を称賛する ・小さな前進を認める

④ 現場掲示 忘れず思い出すための“視覚的な工夫”

手指衛生を思い出すための現場の掲示物を、ここでは「リマインダー」と呼びます。リマインダーとは、手指衛生の実行率を高める強力なツールです。

内容は1～3か月ごとなど定期的に更新すると効果が続きやすくなります。また、イベントや研修の時期に合わせて更新するのもよいでしょう。リマインダーの例を表4に示しました。

POINT	
ポスター・ステッカーを活用し目立つ場所に掲示	視覚的にわかりやすい内容
・手洗いの場の上 ・トイレ ・食堂入口 ・各居室前 ・介助ワゴン ・エレベーター前	・写真・イラスト ・伝える内容は1～2個に絞って記載 ・季節イベントに合わせたデザイン

表4 福祉施設で使えるリマインダー例

場 所	リマインダー例
トイレ	トイレの後は手洗いを
食堂入口	食事前に手を洗いましょう
各居室前	次の方に触れる前に手指消毒
介助ワゴン	ケアの前後に手指消毒

⑤ 組織文化 組織全体で「手指衛生が当たり前」の雰囲気を作る

MMISの中でも最も効果が長く続くのが「組織文化」です。

組織文化を作るためには、管理者・リーダーの姿勢が重要であり、MMISの①～④の実施にも影響します。また、福祉施設では、利用者や家族も手指衛生の重要な担い手として位置づけられます。

POINT	
管理者・リーダーの姿勢が文化を作る	失敗しても責めない雰囲気
・管理者・リーダーが率先して実践する ・管理者・リーダーから職員に、手指衛生についてポジティブな声かけをする ・管理者・リーダーが職員の取り組みを認める	・手指衛生ができていない場면을指摘する場合「一緒に改善しましょう」という姿勢で関わる
利用者・家族との協働	手指衛生を楽しく広める
・手洗いを案内するポスターを掲示する ・面会者用の手指消毒ステーションを設置する ・食事前の手洗いの声かけをする ・一緒にポスターを作る ・イベントや研修に参加してもらう	・手指衛生を推進する川柳コンクールを開催する ・手指衛生ポスターを職員全員で協力し作る ・手洗いの歌を作って動画撮影し、施設内で流す ・様々な手指消毒剤や石けんを試供するイベントを開催する

Ⅲ まとめ

手指衛生は、福祉施設で働くすべての人が利用者の健康を守るための最も基本で、最も効果の高い感染対策です。しかし「知っている」だけでは定着につながりません。

WHOの多角的戦略にあるように、①物品設備②研修教育③測定評価④現場掲示⑤組織文化を組み合わせることで初めて、手指衛生は習慣化されます。利用者と職員を感染症から守るためにも施設全体で楽しく取り組み、続けやすい仕組みを作っていきましょう。

＼手指衛生に関する／

疑問やお悩みを募集します！

詳しくは裏表紙をご覧ください

入力締切 6月15日(月)まで

アンケートはこちら



引用・参考文献

- 1) 日本環境感染学会, 教育, 手指衛生教育用資料, HHSFスコア入力ツール, https://www.kankyokansen.org/education/hhsf_score_tool/, 2025年11月19日現在。
- 2) World Health Organization, RESOURCE CONSIDERATIONS FOR INVESTING IN HAND HYGIENE IMPROVEMENT IN HEALTH CARE FACILITIES, <https://iris.who.int/server/api/core/bitstreams/b297cfb3-c61c-4e9a-8f82-60b1981d5aa6/content>, 2025年11月19日現在。